

令和6年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	基盤教育群
学 群 長 名	川島滋和

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課 題</td> <td style="padding: 5px;">授業外の学修時間の少なさ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td style="padding: 5px;">事前・事後学修に費やした時間が全学平均の2.2時間と比べると少ない。講義形式の授業が多いことやシラバスに書かれている事前・事後学修の内容が学生に伝わっていない等の理由が考えられる。</td> </tr> </table>	課 題	授業外の学修時間の少なさ	理 由	事前・事後学修に費やした時間が全学平均の2.2時間と比べると少ない。講義形式の授業が多いことやシラバスに書かれている事前・事後学修の内容が学生に伝わっていない等の理由が考えられる。
課 題	授業外の学修時間の少なさ				
理 由	事前・事後学修に費やした時間が全学平均の2.2時間と比べると少ない。講義形式の授業が多いことやシラバスに書かれている事前・事後学修の内容が学生に伝わっていない等の理由が考えられる。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課 題</td> <td style="padding: 5px;">理解よりも暗記や生成AIに頼る勉強方法</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td style="padding: 5px;">教員は学生の理解が深まるように講義をしているが、理解できないと、そのまま暗記したり、生成AIから回答を得ようとする学生が散見される。テスト対策のために学んでおり、本質的な学びにはなっていない。</td> </tr> </table>	課 題	理解よりも暗記や生成AIに頼る勉強方法	理 由	教員は学生の理解が深まるように講義をしているが、理解できないと、そのまま暗記したり、生成AIから回答を得ようとする学生が散見される。テスト対策のために学んでおり、本質的な学びにはなっていない。
課 題	理解よりも暗記や生成AIに頼る勉強方法				
理 由	教員は学生の理解が深まるように講義をしているが、理解できないと、そのまま暗記したり、生成AIから回答を得ようとする学生が散見される。テスト対策のために学んでおり、本質的な学びにはなっていない。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課 題</td> <td style="padding: 5px;">「継続」授業改善計画の提出率は81%となっており、前回（令和6年前期）よりも3ポイント下がっている。授業評価を十分に検証していない科目がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td style="padding: 5px;">担当教員および責任者である群長の授業改善計画に対する認識不足</td> </tr> </table>	課 題	「継続」授業改善計画の提出率は81%となっており、前回（令和6年前期）よりも3ポイント下がっている。授業評価を十分に検証していない科目がある。	理 由	担当教員および責任者である群長の授業改善計画に対する認識不足
課 題	「継続」授業改善計画の提出率は81%となっており、前回（令和6年前期）よりも3ポイント下がっている。授業評価を十分に検証していない科目がある。				
理 由	担当教員および責任者である群長の授業改善計画に対する認識不足				
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	「生命科学」や「物理概論」等では、ディスカッションやアクティブ・ラーニングを実践して、授業外の学修時間を増やしている。生命科学（1.98時間）、物理概論（1.99時間）は全学平均に近い授業外の学修時間となっている。また、「University English」は、少人数クラスの特徴を活かし、Homework Discussionや学生自身が準備する「My Discussion」を通じて、授業外の学修時間を3.04時間にまで増やしている。さらに、時間外の学修時間が多いだけでなく、学生自身の目標に対する到達度も高く、学生自らが主体的に学んでいる様子がうかがえる。				
②	期末試験やレポート課題においては断片的な知識を問うのではなく、学んだことを統合化したり、学生の経験や学んだことを表現できるように、試験問題やレポート課題での「問い」を改善していく必要がある。つまり、暗記や生成AIでは対応できないような試験、レポート課題を増やすとともに、教科書や資料の持ち込みを可とする試験を増やしていく必要がある。また、生成AIについては、その利用を前提とした上で、どのような使い方が本質的な学びにつながるのか早急に議論する必要がある。				
③	群長および副群長より、未提出科目の責任者に授業改善計画の目的を説明し、提出を指示する。また、スタートアップセミナーについては、学群ごとに結果の共有を授業改善計画に反映できるような仕組みを検討する。				

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
「Academic Reading」では反転授業（学生がデジタル教材等を使って予習し、教室ではその知識を基にディスカッションや演習を行う教育方法）を取り入れており、毎回1時間以上の予習が必要とされている。目標に対する学生自身の到達度は、基盤教育群科目の中で最も高く、主体的な学修とその手ごたえをつかんでいる様子がうかがえる。	
2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
反転授業が有効に機能する科目の特徴は何か、あるいは効果的な反転授業の運営方法などを教員間で議論し、より効果的な教育方法を模索していく。	

令和6年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	看護学群
学 群 長 名	菅原よしえ

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">課 題</td> <td>【継続】授業外の学習時間の減少</td> </tr> <tr> <td>理 由</td> <td>看護学学群の後期科目の授業外学習時間は、令和4年度後期では平均2.71時間、令和5年度後期では平均1.18時間で令和6年度平均1.08時間であった。すべての科目で授業外の学習時間が減少している。しかし、2024(R6)年度学修行動調査では、「授業時間外に友達と授業に関する学修したこと」「小テストの実施やレポートなどの課題提出」「自発的に文献者資料を調べること」の経験について、全学平均よりも肯定的な回答が得られている。本授業評価のアンケートでは、授業外の学習の時間数が減少傾向だが、別調査の学修成果の測定では、授業外での学修の経験が肯定的であるとの結果と相反する結果である参照：学修成果の測定 公立大法人 宮城大学 - MYU。実習科目について、別途に収集しているアンケートでは、事前事後学修に多くの時間をとっている。</td> </tr> </table>	課 題	【継続】授業外の学習時間の減少	理 由	看護学学群の後期科目の授業外学習時間は、令和4年度後期では平均2.71時間、令和5年度後期では平均1.18時間で令和6年度平均1.08時間であった。すべての科目で授業外の学習時間が減少している。しかし、2024(R6)年度学修行動調査では、「授業時間外に友達と授業に関する学修したこと」「小テストの実施やレポートなどの課題提出」「自発的に文献者資料を調べること」の経験について、全学平均よりも肯定的な回答が得られている。本授業評価のアンケートでは、授業外の学習の時間数が減少傾向だが、別調査の学修成果の測定では、授業外での学修の経験が肯定的であるとの結果と相反する結果である参照：学修成果の測定 公立大法人 宮城大学 - MYU。実習科目について、別途に収集しているアンケートでは、事前事後学修に多くの時間をとっている。
課 題	【継続】授業外の学習時間の減少				
理 由	看護学学群の後期科目の授業外学習時間は、令和4年度後期では平均2.71時間、令和5年度後期では平均1.18時間で令和6年度平均1.08時間であった。すべての科目で授業外の学習時間が減少している。しかし、2024(R6)年度学修行動調査では、「授業時間外に友達と授業に関する学修したこと」「小テストの実施やレポートなどの課題提出」「自発的に文献者資料を調べること」の経験について、全学平均よりも肯定的な回答が得られている。本授業評価のアンケートでは、授業外の学習の時間数が減少傾向だが、別調査の学修成果の測定では、授業外での学修の経験が肯定的であるとの結果と相反する結果である参照：学修成果の測定 公立大法人 宮城大学 - MYU。実習科目について、別途に収集しているアンケートでは、事前事後学修に多くの時間をとっている。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">課 題</td> <td>【継続】新カリキュラム実施における授業運営の点検改善</td> </tr> <tr> <td>理 由</td> <td>令和4年度から新カリキュラムが開始となり、1-2年次の科目では到達目標の達成が維持できている。令和6年度後期では3年次科目が新カリキュラム開始となるが、実習科目であるため本授業評価とは別にアンケートを行い評価が必要である。新カリキュラム4年間終了(R7)まで、運営における振り返りと改善充実が必要である。</td> </tr> </table>	課 題	【継続】新カリキュラム実施における授業運営の点検改善	理 由	令和4年度から新カリキュラムが開始となり、1-2年次の科目では到達目標の達成が維持できている。令和6年度後期では3年次科目が新カリキュラム開始となるが、実習科目であるため本授業評価とは別にアンケートを行い評価が必要である。新カリキュラム4年間終了(R7)まで、運営における振り返りと改善充実が必要である。
課 題	【継続】新カリキュラム実施における授業運営の点検改善				
理 由	令和4年度から新カリキュラムが開始となり、1-2年次の科目では到達目標の達成が維持できている。令和6年度後期では3年次科目が新カリキュラム開始となるが、実習科目であるため本授業評価とは別にアンケートを行い評価が必要である。新カリキュラム4年間終了(R7)まで、運営における振り返りと改善充実が必要である。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">課 題</td> <td>300講義室のスクリーンの汚れで、パワーポイントが見えにくい</td> </tr> <tr> <td>理 由</td> <td>300講義室を使用する複数の科目で授業内に提示したパワーポイントが見えにくいとの意見があった。授業資料をwebclassや紙印刷で提供して補ったが、300講義室は、ホワイトボードを兼ねてスクリーンとして使用するため、汚れ等で見えにくくなる場合があり、学習環境の整備が必要である。</td> </tr> </table>	課 題	300講義室のスクリーンの汚れで、パワーポイントが見えにくい	理 由	300講義室を使用する複数の科目で授業内に提示したパワーポイントが見えにくいとの意見があった。授業資料をwebclassや紙印刷で提供して補ったが、300講義室は、ホワイトボードを兼ねてスクリーンとして使用するため、汚れ等で見えにくくなる場合があり、学習環境の整備が必要である。
課 題	300講義室のスクリーンの汚れで、パワーポイントが見えにくい				
理 由	300講義室を使用する複数の科目で授業内に提示したパワーポイントが見えにくいとの意見があった。授業資料をwebclassや紙印刷で提供して補ったが、300講義室は、ホワイトボードを兼ねてスクリーンとして使用するため、汚れ等で見えにくくなる場合があり、学習環境の整備が必要である。				
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	・授業時間外の学修にあり方について、本授業評価の集計に実習科目が含まれていない。今後、実習科目も含めて学習状況を評価する方策を検討する。また、アルバイト等の生活状況の影響も検討する。				
②	・各科目の振り返り、評価、授業改善を行う。				
③	・300講義室のスクリーン設置を施設課に要望する。				

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
母性看護援助論Ⅰ：羊水検査についての学習では、ディベートを取り入れたことについて、「色々な人の意見を知ることができて、とてもおもしろい授業でした」「より自分ごととして身近に感じ、理解を深めることに繋がったと思います」との感想があった。知識・技術の習得にとどまらず生命や母性看護に関する知的好奇心が満たされる経験をした学生の声もあった。ディベートは、倫理的側面について、学生が主体的・能動的に学習でき有効な学習方法であり、次年度も実施したい。	
2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
授業評価アンケート集約結果と改善計画の資料を、教授会等で看護学群全教員へ周知する。	

令和6年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	事業構想学群
学 群 長 名	蒔苗 耕司

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	今年度前期と同様ではあるが、前任者の科目を専任教員が科目責任教員として引き継ぎ実施するケースが多かったことから、教育の質保証および授業内容の継続性が懸念された。
	理 由	複数の教員による定年退職および異動に伴い、科目特性に応じて適任の非常勤講師を任用することで開講はされているが、シラバス内容が的確に引き継がれ、科目の特性を理解した開講がなされているか危惧された。
②	課 題	継続的に挙げられている課題ではあるが、全体的に講義系の科目において学生の事前・事後学習に費やす時間が少ない傾向にあり、かつ科目による事前・事後学習における差が顕著であることが挙げられる。
	理 由	講義系科目においては、授業時間外学習として予習のほか復習として課題レポートを課す科目が多い中、科目に応じて難易度や頻度など異なることから、費やす時間の低下に繋がっていると考えられる。
③	課 題	新型コロナウイルスの感染拡大・終息に伴い、講義形態は対面方式だけでなく遠隔やオンデマンド方式などさまざまな教授法が存在する中、科目の特性や内容に応じて効果的な講義形態の検討や選択、合理化を図る必要がある。
	理 由	対面講義が本格的に復活し定着している中、大和キャンパスの立地上、天候や時期によって交通麻痺や混雑による遅延といった通学環境の悪化時における対応とともに、さまざまな教授法の併用により学習の深化が期待される。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	事前に、シラバスに基づき科目責任教員と非常勤講師との間で科目の特性を十分に踏まえ、事前・事後課題の与え方等綿密な打ち合わせを実施した上で開講するよう尽力してきた。また、科目責任教員は適宜非常勤講師からの相談に加え、学生からの質問・問い合わせにも迅速に対応することで、非常勤講師の担当科目において学修効果の低下に繋がることがないよう密な連携のもと実施してきた。また、科目の特性に応じて最適な非常勤講師を任用していることから、シラバスの範囲内で実践的な経験に基づく内容が教授されているケースも存在している。
②	授業時間外学習に費やす時間が少ない傾向に対して、授業時間外学習（事前予習・事後復習）の設定方法については各教育が適宜工夫・改善を行っており、引き続き効果的な教授法を模索する必要がある。また、学習内容の定着度向上に向けて、対面授業に加えて反転学習を取り入れた科目運営の必要性も高まっている。上記の学習方法を積極的に取り入れ、引き続き高品質で効果的な学修者本位に資する教育活動に注力していきたい。
③	今年度後期では、前期と同様オンライン授業のコンテンツと教科書教材の併用することで、履修学生の理解度について良好な結果が得られた科目が存在する。対面講義、オンライン講義、オンデマンド講義などを併用することで、学生の体調や事情に合わせて、在宅あるいはキャンパス以外の環境でも受講することができ、学習の効果効率が向上するような科目運営、登校、通学することによる学びの充実を図っている。今後、科目の特性に応じた適切な教授法を見出すことで、大和キャンパス立地が学生にとって不利にならず、かつ有効活用ができるよう検討していきたい。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

e ビジネス（洪田一夫先生）本科目は、生成AIという旬なテーマを軸に最新のITやデジタルのトピックスを取り上げ、ビジネスパーソンとしての即戦力化を意識したスキルトレーニング、グループワークを通じた教育を実施している。学生からの評価では、全員で勉強するスタイル・グループワークの実施することで、受講生のモチベーションを維持するとともに、実践的なフィードバックを課すことで、社会に出てからも役立つと思われるスキルを提供している。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

生成AIの分野は急激な進歩・発展途上の段階にあるが、他の分野においても社会的背景や価値観の多様化により日々刻々と変化している。社会的要請として過去の経験をふまえつつ、実社会において貢献できる人材育成といった実学を取り入れた教育が求められていることから、当該分野における最先端の知見や知識を取り入れた講義内容の充実に注力していきたい。

令和6年度後期 学群教育改善計画

学 群 名	食産業学群
学 群 長 名	井上 達志

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	実験・実習の科目を履修する学生が少ない。
①	理 由	実験・実習の科目は授業時間が長く、また、レポートの提出が頻回に求められている。それに対して取得できる単位は1単位に留まること。
②	課 題	全般に予習および復習の学修時間が十分ではないため、授業の内容のレベルを下げざるを得ないことがある。また、教員側がそれを担保するために課題等を課すと学生の負担過多と捉えられてしまうこと。
②	理 由	単位を修得するための学修時間について学生の理解が不足していることに加え、単位の取得が学びの目的となってしまうこと。学生の経済的な理由からアルバイトに割く時間が多くなっていること。
③	課 題	【継続】今後の大学教育において、AIの精緻化が進む中で将来の社会で活躍できる人材をどのように教育するかを考慮した授業の組み立て。
③	理 由	教育全般においてAIの活用に関する議論が不十分と思われること。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	実験・実習において実物を対象に実際に自身が手を動かして学び、操作を通して理論の理解を深めまた技術等を取得する意義を学生に説明してきている。少数の学生はそのことを理解し積極的に履修しているものの大多数の学生は負担に対する取得単位の少なさから敬遠しているものと考えられる。カリキュラム改変によって実験・実習科目においても2単位の付与を検討している。
②	学修者本位の教育への変換が求められる中、学習者自らが考えるキャリアパス、興味や学ぶ意義を理解して履修科目を選択できるようなカリキュラムの設計を大学改革の中で展開の検討が進行中である。
③	物事に対する自己の思考や興味を深めるためにはある程度の知識の蓄積が必要であり、その前提に立ってAIが提供できることや人間がすべきことを整理しながら授業内容を組み立ててゆく必要がある。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

「少数ではありますが熱心に講義に臨んでいる学生が散見され、基本的にはそのような学生への発信を念頭に置いて講義を行いました。しかし、寝ている学生を起こしたりや内職（他講義のレポート作成、スマホによる動画視聴やチャットなどのやり取り）をできなくするような厳しい接し方が必要かどうか悩んでいるところです。他の講義ではこんな感じでも単位がもらえている可能性があり、もしそうだとしたら学生が単位取得を簡単に考えるようになってしまい、真剣に勉学する雰囲気が無くなってきていると感じます。そんな全体的な雰囲気に飲み込まれて努力することをあきらめているようだ」とのコメントがある一方、「小テスト・質問などはteams等を使って共有し、適切な双方向な授業を引き続き実施し、学生の理解度や到達度を確認しながら、講義を実施する。」とのコメントもあった。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

科目によっては基本的な知識を身に着けた上でそこから考えを発展させてゆくステップを踏む授業スタイルも存在する。最初の段階である基本知識を理解する上で学生が興味を持ち続けられるような双方向的授業の工夫も必要であり、これらについては学群や学類のFDなどで話題にしてゆきたい。